

各校区における活性化の方向性の確認について

〈学校の再編活性化の進め方〉

児童生徒やその保護者、就学前の子どもの保護者、地域住民の皆さんなど、学校に関わる多くの方々と、「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえて丁寧な議論を展開して進めていく。

このような考えのもと、学校に関わる多くの方々と議論を深め、課題の整理を行い、一緒に案を積み上げていく。

東部中学校区6小学校における意見交換の状況(まとめ)

小規模校のメリット・デメリット

メリット

- ・児童一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。
- ・アットホームで児童相互の人間関係が深まりやすい。
- ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。
- ・保護者や地域と顔が見える関係性を築け、連携が図りやすい。

デメリット

- ・児童の意見や考え方が偏りがちになりやすい。
- ・競争意識が育ちにくい。
- ・多様な学習・指導形態がとりにくい。
- ・学校行事や集団教育活動に制約が生じやすい。
- ・人間関係や児童相互の評価などが固定化しやすい。

統合した場合のメリット・想定される課題

メリット

- ・多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が増える。
- ・多様な学習・指導形態をとりにやすい。
- ・学校行事や集団教育活動の幅が広がる。
- ・新たな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。

想定される課題

- ・スクールバスなどの通学手段の確保が必要となる。
- ・学童も併せて検討する必要がある。
- ・児童によっては、大人数に埋もれてしまう子も出てくる。
- ・学校と地域、学校と保護者との連携が図りにくくなる。

※配慮事項は裏面を参照

一定の規模の集団で学ぶことができる教育環境を確保する必要がある

※この方向性で進めるかどうかについて、皆さんで議論をしてください

その他のご意見



他校の方々と一緒に議論を進める必要がある



東部中学校区学校活性化協議会を設置



具体的な統合案が示されないと、議論が進んでいかない



意見交換等でお出しいただいた再編活性化案を提示



今後のスケジュールが見えないので、不安を感じる



2023年度末までに方向性の決定をめざす(2024年度当初にずれ込むことも想定)

再編活性化を進める上での配慮事項

通学環境における安全安心

- 通学路の安全確認・設定
- スクールバスの導入

学校施設及び跡地の活用

- 有効活用策の検討
- 効果的な維持更新

放課後児童クラブの確保・充実

- 現存する放課後児童クラブ施設の存続・活用

通学区域の弾力化

- 対象校区内の児童・保護者の様々なニーズに対応するために検討

地域と学校との連携強化

- 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と地域とが共有し、未来の創り手となるための必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、相互の連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進めていくための体制を構築

地域とともにある学校づくり

- 各地域の教育資源を積極的に活用「探究的な学習」

児童の環境変化

- 小中学校9年間を一体ととらえ、継続性・一貫性のある教育体制を構築

幼稚園

小学校6年間

中学校3年間

円滑な接続

- 交流学习の充実

